

会長就任にあたって

鈴木 孝 治

この度の代議員による選挙の結果、2015年及び2016年度の会長に選出されました。代議員はじめ会員の皆様、理事や事務局の皆様、どうぞよろしくお願い致します。

日本分析化学会は1952年に設立されて以来、60年を超える歴史のある学会であり、これまでに分析化学研究の向上並びに会員各位の分析教育及び研究支援などに尽力してまいりました。本学会は数年前に社団法人から公益社団法人へ移行しましたが、学会活動に関しては変わることなく、会員各位の研鑽と学術文化への発展に寄与することを目的にさまざまな活動を続けてまいりました。これまで尽力された諸先輩各位に敬意を表しますとともに、私自身は今後の学会活動とプレゼンスの向上に全力を尽くす所存です。

私はこの4年間学会の理事を務めてまいりましたが、本学会会計をより明瞭化された寺前^前会長、毎日の会計の可視化に尽力された紀本^前副会長に感謝致しますとともに、本学会の財政並びに事務局改革の必要性を理解してまいりました。学会会員数の推移を見ますと、他の多くの学会と同様、この十年は減少傾向であり、近年やや下げ止まりに近い状態にきてはおりますが、現会員数は約6500となり、収入と支出のバランスをより強く意識していく必要があります。そのため、学会の財政健全化が不可欠であります。一方では学会活動のさらなる活性化という言わば相反する目標を具体的に両立できるようにする任務を感じております。

数年前に本学会内に学会活性化委員会を組織し、その委員長として学会事業および活動について、1) 会員区分と会員サービス、2) 年会・討論会などの本部事業、3) 学会ホームページの刷新と利用、4) 学会誌・教育書籍、5) 産学連携強化と共同事業、6) 賞、7) 懇談会、8) 学会国際化の強化、9) 事務局体制などのあり方や改革など、委員および会員各位からのさまざまな意見を提言としてまとめ、ぶんせき誌2013年3号168～170ページに報告しております。今後はこれらをさらに理事会などで議論して規約を作り、学会事業の活性化に着実につなげていく所存です。このため、「理事」のほかに若手や必要な技能者を「幹事」として加えた拡大理事会や拡大企画運営会議を頻繁に開き、学会および学術の活性化のための具体策を作成し、実行していく予定です。また、学会誌につきましても3誌委員長および編集委員各位のご尽力のもと、費用削減を図りながら、その誌面の充実も進めてまいります。さらに、学会のホームページを刷新し、国際化に対応できる和文英文の魅力的なホームページを作り、学会の考え方、学会からの情報発信、学会での教育、学会の会員相互の情報交換と利用など、学会の顔とも言うべきホームページの充実を図っ

てまいります。これらの目標に向かっては、幾人かの先生に協力をお願いして、すでにその一部を進めているところです。

電子化の次は国際化が叫ばれている時代です。その時代背景にあって、学会のプレゼンスと国際情報発信のあり方を考えていかなければなりません。科学技術は日本の重要な柱であり、今後もそれが続くような努力を国レベルだけではなく、学会レベルでも行っていかなければなりません。本学会の役割は分析化学分野でのアジアの主要情報発信元として確固たる位置を占めるための有用な学術情報発信と国際協力です。隣国の中国は、近年研究費や教育にかなり力を入れており、今では米国Analytical Chemistry誌の約2割、英国Analyst誌の約3割が中国人著者による研究論文になってきました。ご存知ではないかもしれませんが、ここ約2年は本学会英文誌のAnalytical Sciencesにおいても中国からの論文が最大数を占めております。分析機器のようなモノづくりの質はまだ日本が勝っているといえると思いますが、頭脳ともいべき論文の質および量については米国にせまる勢いで中国が躍進を続けております。日本の研究者の質は高く、数よりも質のいう時代になっているとはいえ、より積極的な情報発信が求められます。ただし国際関係に関しては誤解のないように申し上げておきますと、私たちは健全な競争とともに、共存共栄の国際協調が必要であり、そのためにAsian Analysisや、CSJシンポジウムなどをはじめ、さまざまな国際共同事業を強化あるいは新設し支援していきます。

国内では産学官協力も重要であり、日本分析機器工業会などの国際シンポジウムや、講演会、講習会事業も積極的に支援し、このための協力は惜しみません。分析化学は融合分野であり、化学だけではなく物理、電気・電子、機械分野などとの連携、さらには理工、農、薬、医などとの連携、及び産官学の社会連携が求められます。私自身、内閣府日本学術会議の化学委員会分析化学分科会の委員長をここ2年務めてまいりましたが、そこでも産官学で協力して分析化学の社会への貢献や政策提言について真剣に考え、先端分析に関するシンポジウムや講習会等を通じて、分析化学の重要性と啓発活動に努めてきました。このなかで考えたのは、分析化学会はこれまで以上にスタンスを広く持ち、分析化学から分析科学へ裾野が広がるような幅広い情報発信とさまざまな研究者が集い議論できる場を提供することです。そのための学会活性化策を会員各位とともに考え、ここ2年間でできるだけ実行に移したいと考えております。産官学が協力して、分析化学を社会へそして世界へ強く発信できるように努力する所存でございますので、会員の皆様のご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。